

ふくしまっ子

体力向上総合プロジェクト

H31. 1. 15

第40号
福島県教育庁
健康教育課

本県肥満傾向児の出現率（年齢別）について

平成30年度学校保健統計速報（学校保健統計調査の結果速報）の「肥満傾向児の出現率」についてお知らせします。

※ 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度（過体重度）を求め、肥満度が20%以上の子どもです。

肥満度（過体重度）

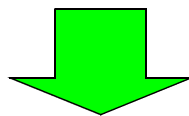
$$= \text{〔実測体重 (kg) - 身長別標準体重 (kg)〕} / \text{身長別標準体重 (kg)} \times 100 (\%)$$

【調査対象者】

- 幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校及び高等学校のうち、文部科学大臣が指定する学校に在籍する5歳から17歳までの幼児、児童及び生徒（抽出調査）です。
- 調査対象学校数は県内1,133校のうち167校、調査対象者数は在籍者200,038人のうち14,513人です。

【結果】

- 本県の子どものうち13歳男子を除き、全年齢の男女で肥満傾向児出現率が全国平均を上回りました。
- 男女計では、前年度は5つの年齢で全国ワースト1位でしたが、今年度は3年ぶりに全ての年齢で全国ワースト1位がなくなり、改善の兆しもみられます。
- 前年度との比較では、男女とも約半分の年齢で改善しました。
 - ・ 男子は5歳、8歳、9歳、10歳、11歳、13歳、16歳が改善しました。
 - ・ 女子は7歳、8歳、10歳、13歳、14歳、16歳が改善しました。



県教育委員会では、震災と原発事故後に地域の生活環境が大きく変化し子どもたちの遊ぶ場所、仲間、時間の減少などから運動の機会が減り運動不足になったことや、食生活を含む生活習慣の変化が影響しているのではないかと分析しています。また、県教育委員会で作成した児童期運動指針に基づく学校での指導や自分手帳を活用して生活習慣の見直しを行うことなどが改善につながっていると考えています。

【本県の取組】

- 就学前から小学校下学年への元気キッズサポーターの派遣・支援
- 小学校への体育専門アドバイザーの派遣・支援
- 自分手帳を活用した生活改善
- 食生活・肥満等の健康教育に係る専門家派遣事業
- 栄養教諭を中核とした食育推進強化事業
- ふくしまっ子児童期運動指針の策定・配布
- webなわとびコンテスト

など



★ 引き続き「2020年度に『肥満傾向児の出現率』を全国並にする」という目標を達成できるよう様々な事業に取り組んでいきます！

（文責 健康教育課 指導主事 高橋英人）